

横浜港におけるアカカミアリの確認について

環境省が全国の54港湾で実施しているヒアリ確認調査（東京港青海ふ頭でヒアリの女王アリが多数見つかったことを受けての追加調査）を令和元年11月17日（日）から12月3日（火）まで、横浜港で実施しました。

この調査において、11月17日（日）にアカカミアリと疑わしい個体が発見され、専門家による同定の結果、同日、アカカミアリと確認されました。

目視で確認された個体については殺虫処理を実施した上で、確認地点周辺では、殺虫餌（ベイト剤）等を設置しています。

なお、当該アリが確認された場所は、コンテナヤードであり、一般の方が立ち入ることができないエリアです。人的被害はありませんでした。

1 経緯

- 11/17 環境省が全国54港湾で実施しているヒアリ確認調査（追加調査）において、調査事業者が横浜港南本牧ふ頭でコンテナヤードの地面の舗装の隙間からアカカミアリと疑わしい働きアリ（約300個体）を発見。
同日17時に専門家がアカカミアリであることを確認。
- 11/18 環境省、調査事業者及び横浜市職員が現地を確認し、防除を実施。
前日にアカカミアリが確認された周辺で、働きアリ（約30個体）を確認。確認個体を殺虫処分。周辺に殺虫剤（液剤）を散布し、殺虫餌（ベイト剤）及びモニタリング用のトラップを設置。港湾関係者に対して、注意喚起及び情報提供。
- 11/21 横浜市職員が、現地を調査し、新たな確認はなし。17日の確認箇所には殺虫剤（液剤）を追加散布。
- 11/25 横浜市職員が、現地を調査し、新たな確認はなし。17日の確認箇所には殺虫剤（液剤）を追加散布し、殺虫餌（ベイト剤）及び18日に設置したトラップを回収（トラップにアカカミアリ働きアリ3個体確認）。新たに殺虫餌（ベイト剤）、及びトラップ設置。
- 12/2 横浜市職員が、現地を調査し、新たな確認はなし。17日の確認箇所には殺虫剤（液剤）を追加散布し、殺虫餌（ベイト剤）及び25日に設置したトラップを回収（トラップにアカカミアリ働きアリ2個体確認）。新たに殺虫餌（ベイト剤）、及びトラップ設置。

2 今回確認されたアリについて

南本牧ふ頭において確認されたアリは、アカカミアリの働きアリ約300個体です。

3 今後の対応

横浜市は引き続き、環境省等と協力して確認地点周辺等を中心にモニタリング用のトラップや殺虫餌（ベイト剤）を設置し、アカカミアリを発見した場合は、速やかに殺虫処分するなどの防除を実施します。

また、随時、港湾関係者に注意喚起を行うとともに、関係機関に情報共有していきます。

4 事業者の皆様へ

(1) 注意点について

- ・アカカミアリを刺激すると刺される場合があります。
- ・アカカミアリと疑われるような個体や巣を見つけた際は、刺激（アリを踏もうとしたり、巣を壊したり等）しないでください。

(2) 刺されたときの対応について

- ・まずは安静（20～30分程度）にし、容体が急激に変化することがあれば、最寄りの病院を受診してください。
- ・受診の際は、「アリに刺されたこと」「アナフィラキシー（重度のアレルギー反応）の可能性があること」を伝えてください。

（裏面あり）

(図) 今回アカカミアリが発見された場所



(写真) 今回確認されたアカカミアリ
働きアリ

(横浜市環境科学研究所撮影)



【参考】アカカミアリについて

- ・体長3～5mm。体色は赤褐色で頭部は褐色のアリ。
- ・原産地：アメリカ合衆国南部～中米。
- ・日本での生息状況：硫黄島（小笠原諸島）等に定着。その他国内で確認事例がある。
- ・生態系に係る被害：攻撃的で高い採餌能力を持ち、他の小型節足動物などを捕食し、在来の生物多様性を減少させることで知られている。
- ・人体に係る被害：刺されると、アルカロイド系の毒によって非常に激しい痛みを覚え、水泡状に腫れる。ヒアリに比べると毒は弱いとされている。

お問合せ先

(アカカミアリ等の駆除に関する事) 環境創造局政策課環境プロモーション担当 Tel 045-671-2478

(アカカミアリ等の簡易判断に関する事) 環境創造局環境科学研究所 Tel 045-453-2550

(港湾の管理に関する事) 港湾局管財第一課 Tel 045-671-7083